

かみすながわ

議会だより

令和2年 第3回定例会

第14号

発行 上砂川町議会 編集 議会活性化特別委員会
上砂川町議会事務局 電話 0125-62-2880

町内団体代表者と上砂川町議会との意見交換会



掲載内容

*主な議会政務報告について	2P
*一般質問と答弁内容(要旨)について	3P
*議員定数について	8P
*提案された意見書について	8P
*所管事務調査報告について	9P
*町内団体代表者と上砂川町議会との意見交換会	9P
*町内事業への参加について	10P

主な議会政務報告について

月 日	会 議 行 事 名	場 所	出席者
9・4	議員定数等審査特別委員会	役場	委員長他6名・議長
	庁舎建設特別委員会	役場	委員長他6名・議長
8	議会運営委員会	役場	全委員・議長
9	町内団体代表者と上砂川町議会との 意見交換会	活性化センター	議長他5名
11	衆議院議員稲津久政経セミナー	滝川市	議長
13	いなつ久懇談会	町民センター	議長
15～18	第3回上砂川町議会定例会	議事堂	全議員
15	議会運営委員会	役場	全委員・議長
16	行政常任委員会	役場	全委員
17	決算特別委員会	役場	全委員
28	地域おこし協力隊退任報告会・ 活動目標発表会	ふらっと	議長・吉川議員 伊藤議員
10・9	中空知町議会議長連絡協議会 第2回定期総会	奈井江町	議長
	中空知5町「町長・議長懇談会」	奈井江町	議長
15	令和2年第2回空知町議会 議長会定期総会	岩見沢市	議長
16	消費生活展	町民センター	議長
	衆議院議員渡辺孝一「国政報告会」	滝川市	議長
11・4	上砂川町表彰式	町民センター	議長・副議長
9	庁舎建設特別委員会	役場	全委員・議長
27	第6回上砂川町議会臨時会	議事堂	全議員
	第2回砂川地区保健衛生組合議会定例会	砂川市	伊藤議員
	第2回砂川地区広域消防組合議会定例会	砂川市	伊藤議員
30	中空知広域市町村圏組合議会第2回定例会	滝川市	議長・副議長
	石狩川流域下水道組合議会第2回定例会	滝川市	議長

令和2年第4回上砂川町議会定例会を傍聴しませんか？

本会議は、簡単な手続きで自由に傍聴することができます。町議会の活動などを知るよい機会ですので、ぜひ傍聴にお越しください。

※日程は変更となる場合があります。

○議会日程：12月16日（水）～18日（金）

○傍聴可能日：12月16日（水）

12月18日（金）

一般質問
(質問者順)



議席番号2番
水谷 壽子 議員

質問要旨
奥沢パークゴルフ場の備品について

パークゴルフ場に設置してあるテント、テーブル、パイプイスの状態が著しく劣化しているのですが、中古の物件でもいいので取り替えてほしいのですが町としてはどのように考えていますか。また設置している土地が凹んでいるのでテーブル、イスが安定せず不便なのでこの点を考えていただきたいことと、コース場内の芝がと

ころどころ剥がれて土が出ているので剥がれている部分の芝だけでも張り替えてほしいと思えますがいかがでしょうか。

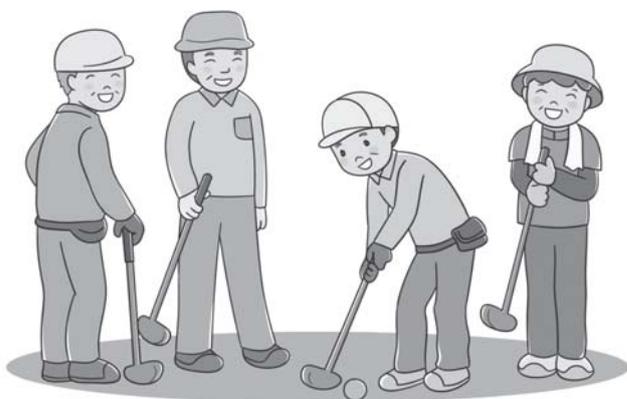
答弁要旨

奥沢パークゴルフ場は平成10年のオープン以来、今年で23年を迎え、この間、町民を中心に内外を問わず多くの愛好家にご利用いただいております。昨年度は延べ2,500人を超える利用がありました。本年はやむなく新型コロナウイルスの感染拡大防止を優先し、オープン時期を例年の4月末から約一月遅れの5月29日といたしました。オープン後は順調に利用が伸びており、町民の健康増進にとつての中心的な位置づけとなっております。

場内設置の備品等でありませんが、更新の必要性の高いものにつきましては従前からその都度更新しており、近年では防球ネットやコースの番号表示、券売機などを更新しております。また、テーブル、イス等につきましては、議員ご指摘のとおり経年の劣化がありますものの、屋外での設置ということもございま

すので、今後、他の公共施設の物品更新にあわせ、新たに更新、もしくは程度の良い物品と適宜交換して対応してまいります。

また、テント設営場所の現地を確認したところ、ご指摘のとおり土地の凹凸が見受けられることから、コース場内の芝張り替えとあわせ、利用者の安全を優先に考慮しながらパークゴルフ連盟等団体とも協議をしながら、良い方策を検討してまいります。



質問要旨
分別ゴミ排出作業について

現在分別ゴミ排出作業は地域住民の協力により実施されていますが、協力する住民の年齢が地域により高齢化がすすみ、お手伝いできる人達が減少し、若い方も仕事の関係で手伝えない方もいます。このような現状で協力、たすけあいにも限界があると思います。

特にこれから冬場の排出場所の除雪作業は高齢者には重労働です。町としてこの分別作業について制度として続けていくつもりなのか、その場合高齢化で分別できなくなった拠点が出た場合についてどのようにするのか、考えがあるなら教えていただきたいと思えます。

答弁要旨

分別収集につきましては、法令に則り各自自治体が行っているものでございます。循環型社会形成推進の一環として、プラスチックごみ削減のため本年7月にはレジ袋の有料化が開始され、また、プラスチックごみを新たに「プラスチック資源」の区分を

設けて一括回収するよう全国の市区町村に要請する方針を政府が固めたとの報道もございましたことから、今後分別項目の変更等はありません。ごみの減量化に向け継続して実施しなければならぬと考えています。

一方で高齢化により分別するのが難しい高齢者の問題が地域包括支援センターの地域ケア会議で3年前に取り上げられ、こうした高齢者への配慮から、衛生協力会でも対応を検討し、国の進める細分化には幾分逆行することとなりますが、許容の範囲内で別々の区分としていたアルミ缶、スチール缶、無色ビン、茶色ビン、その他のビン、雑誌、雑紙、チラシの区分を、昨年4月からアルミ缶とスチール缶と一緒に、瓶類も色分けなし、雑誌・雑紙・チラシも区分せしに出せるよう対応したところです。高齢者のごみ出し支援につきましては、要介護認定を受けている方の場合は介護サービスを利用したヘルパーによる分別支援があり、介護保険の要支援者・事業対象者の中には町社会福祉協議会の生活支援サービス事業でボランティアによるごみ出し支援を利用している方もおりますが、ボランティアの方も高齢者が多く、希望する方全員に支援できてはいないと聞いております。

この高齢者へのごみ出しサポート体制につきましては、8月26日に北海道議会環境生活委員会による管内市町長との意見交換会の席上でも本町が抱える今後の課題として発言しておりまして、行政としての補充の在り方につきまして、関係機関と連携を密に対応していく必要性を認識しております。

また、資源ごみの置き場所の管理につきましては、基本的には各地区の衛生協力会が中心となり、地域住民の相互協力で行われているものと理解しておりますが、今後、置き場所の管理ができない地区がでてくることも予想されますので、衛生協力会、自治会等とも協議し対応策を検討してまいります。

高齢化率が50%を超える本町におきましては、他市町以上に地域で共に助け合う「共助」が必要とされる状況でございますので、今後もご理解とご協力をお願いします。



議席番号3番
小澤 一文 議員

質問要旨

「コロナ禍における子どもの定期予防接種」について

コロナ禍により子どもの定期予防接種を控える動きが全国的に起きています。外出の自粛や通院による新型コロナウイルスの感染への不安が背景にあると考えられますが、適切な接種時期から遅れば、それだけ子どもが病気にかかるリスクも大きくなり、小児科医からは懸念の声が上がっています。この状況の中、接種を見送り、期限を過ぎてしまった子どもが、接種そのものを諦めかねないことがあるかも知れません。このため厚生労働省は、「相当な理由」

答弁要旨

があると自治体が判断した場合は、定期予防接種の期限延長を認めても差し支えないとしました。新型コロナウイルスの治療薬やワクチンの開発・実用化までには、なお一定の時間を要することから、終息には時間が掛かることが予想されます。コロナ禍の現在、予防接種期限の延長を図ることで、接種時の感染への不安を無くすことや定期接種の時期を逃してしまった子どもも、定期接種として実施できるよう適切な対応を求めます。

本町における、子どもの定期予防接種につきましては、町内の2医療機関の他、空知医師会の小児科診療を行っている医療機関において、生後2か月から全額助成で実施しております。

定期予防接種の案内やお知らせは、新生児訪問時に接種を受けることで予防できる感染症から子どもを守るために必要であることを説明し、また、予防接種が始まる生後2か月前に再度訪問をして、保護者と接種スケジュールをたて、医療機関の感染予防対策、予防接種の受け方・受ける時の注意点など、保護者が不安なく接種できるよう支援し

ています。

その後は、乳幼児健診で予防接種の進み具合について保護者との確認や母子健康管理システムを活用し毎月の接種状況の把握を行い、接種の進み方が遅れつつある子どもがいる時は、保護者に連絡し、遅れている理由の把握、接種勧奨を行っております。

そのような取り組みの結果、コロナ禍のなかでも、現在のところ保護者の理解のおかげで、接種率に変化はなく、新型コロナウイルス感染への不安からの接種控えはない状況です。

しかし、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、今後、感染が不安で接種を控え、定期接種の対象時期が過ぎてしまう事例が出た場合は、厚生労働省の通知のとおり、定期接種の対象時期の期限を延長し、定期接種と同様に接種できるように対応してまいります。



質問要旨

女性の視点を反映した防災計画の実現について

東日本大震災では、物資の備蓄や提供また避難所の運営等において、「災害時要援護者の安全確保」や女性の視点が生かされた「居住スペースの確保また生活必需品の整備」等について十分な配慮がされず、様々な問題が浮き彫りとなりました。これを受け多くの自治体は、女性ならではの視点を積極的に防災対策に取り入れた体制に見直しが進められました。今や防災に関する政策・方針決定過程において、女性の参画は欠かすことが出来ない取り組みになっていますが見解を求めます。

次に、上砂川町防災会議についてお伺いします。「防災会議」は、本町の地域防災計画を作成し、その実施を推進する機関であつて、本町の地域に係る防災に関する重要事項を審議する組織です。防災会議の委員19名については、防災会議条例により、防災関係官署から町長が任命する者となっておりますが全員男性であります。女性委員の推薦を促し、防災会議に女性委員を登用すべきと考えますが、見解をお伺いします。

答弁要旨

東日本大震災後の平成25年に議員のご質問の中にあるように、内閣府男女共同参画局から「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」が示され、その指針の中に震災において衛生用品等の生活必需品不足、授乳や着替えをするための場所がなかった避難所が見られ問題視されたことから、このことを踏まえ、町では女性用の衛生用品やオムツ及びテント等につきましても災害備蓄品として購入し、また、これからの避難所の開設を想定し、今までの豪雨災害などの自然災害に加え、新型コロナウイルス感染予防の対策が重なる「複合災害」に備えることが必要であるため、災害備蓄品として避難者用のマスクや消毒液・段ボールベットやパーテーションなど購入したところです。

議員ご指摘のとおり、今後の対策や対応を考えると、女性の視点を反映することは、大変重要なことであると認識しており、今後の計画の見直しにあたりましては、多くの女性のご意見を拝聴し、災害発生時の様々なケースも想定しながら、町民の安心安全対策に当たっていきたくないと考えてまいります。さらに、「男女共同参画の視点からの防災・復興

の取組指針」では、防災・復興については、子供・若者、高齢者、障がい者等の多様な視点を反映するためには、防災会議委員の女性委員の割合を高めることと示されており、以前は、女性団体連絡協議会や男女共同参画推進協議会などの地域に根差した活動をしていた女性団体の委員もおりましたが、現在、残念ながら解散されており、推薦を依頼することができない団体がない状況にあります。

現在、各機関に対し委員の推薦依頼をする際、特別な依頼はしておりませんが、町内に防災マスターを取得している女性の方もおりますことから、この方を委員に登用することも含め、女性を主体とした団体からの推薦や各機関に対しましては女性の推薦について促し、また、各地区で自主防災組織を結成する際は、女性の参画にも努めて参ります。





議席番号1番
笹木 笑子 議員

質問要旨

児童館の「放課後児童クラブ化」について

子育て世帯の負担の軽減、また、コロナ禍での、いち早い直接的な経済支援は、子育ての一助になっていると認識しております。

現在、児童館を利用して居る児童の大半が、保護者の就労など、留守家庭の状況です。

児童館がその役割を担っている現状ですが、児童館の本来の設置目的利用方法は、家庭的機能の補完場所である「放課後児童クラブ」とは異なります。保護者の求めている放課後の子ども達の過ごし方とは異なりま

す。特に、土曜日、夏休みなどの長期休業中においては、一日の大半を過ごす子ども達の生活の場所でもあります。

家庭に代わる生活の場所、保護者に代わる生活の指導、健康管理等、保護者が安心して働き、子育てするためになくてはならない場所です。

新型コロナウイルスの終息が見えない現在、子どもたちの放課後の居場所にとどまらず、保護者が安心して働くためにも、実施に向け考えをお尋ねします。

答弁要旨

放課後児童クラブは、一般的に「学童保育」や「学童クラブ」と呼ばれている施設で、法律上の名称は「放課後児童健全育成事業」とされており、主に保護者の就労、病気などの理由により小学生のお子さんを家庭において十分に保育できない場合に保護者にかわって放課後などに遊びや生活の場を提供する事業であります。

放課後児童クラブにつきましては、「第2期上砂川町子ども・子育て支援計画」のアンケート調査の内

容で承知しているところですが、平成31年度に開設した認定こども園に児童館を併設したことにより、ハード、ソフト面での整備拡充とあわせ、児童館に保育教諭も配置することによりマンパワーの充実も図られ、さらには、平成30年度から毎年こども園の保育教諭が、放課後児童支援員の資格研修を受講し、児童館での子どもの育成支援や、必要な知識及び技能習得のため児童厚生員との内部研修を行うなど、安全対策の強化もできているものと考えております。

本町の放課後における事業につきましては、全ての児童を対象とした児童館事業、教育委員会主催の毎週小学校体育館で行う放課後子ども教室、小学校4年生以上を対象とした公設学習塾やキッズ体験クラブ、児童館主催のお習字教室などさまざまな形で子どもたちの放課後活動をサポートしております。

議員ご質問の児童館の「放課後児童クラブ化」につきましては、先に述べたとおり、児童館において放課後児童クラブに準じた機能を持たせた運営をしており、新たにフルセットで整備ができれば良いとは認識しているものの、今ある施設を有

効に使いながら要望に添えてまいりたいと考えており、これまで同様、子どもたちの安全や利便を重視しつつ、保護者が安心して働くことができ、子どもが自由にのびのびと過ごせる放課後の居場所として、保護者の意見も参酌し運営を図ってまいります。



質問要旨

「ケアラー支援（介護者支援）」について

現在、介護サービスなどの支援は介護が必要な人に対するものが中心で、介護者は支援の対象とされていません。

様々な世代や立場で家族などを介護する人（ケアラー）を社会で支援することは、介護者の社会的な孤立防止や、介護を受ける人と介護者が共倒れになることの防止につながります。

本町では「ケアサポーター」の養成、「認知症老人と共に歩む会」でも認知症家族への援助に積極的に活動されており、そんな支えあいの土壌のある町だから出来ることと考えます。

行政として取り組むことにより、多様な世代の多様な暮らしを考え、認め合いながら共に暮らす町づくりへと繋がり、犯罪や災害にも強い町になると考えます。

今後は、更に、子育てしながら介護、看護のダブルケアも考えられれます。

町民同士で支えあう事が明確になるような「ケアラー条例」の制定も視野に入れ、実施に向け、お考えをお尋ねします。

答弁要旨

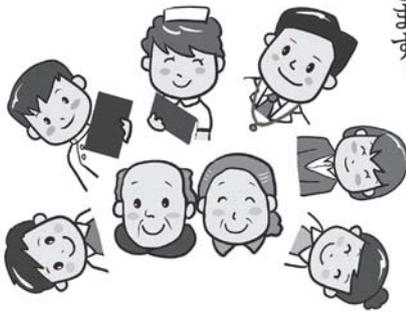
「ケアラー」につきましては、高齢や身体上又は精神上的の障害等により援助を必要とする家族や身近な人を、無償で介護や看護、お世話等を提供する人をいいます。時間的な拘束により、負担感や孤立感を抱え、生活に影響が生じている方がいることも事実で、家族などのケアラーが、身体的、精神的、更には経済的な負担を抱え、ケアを担うことにより社会生活に制約を受けないようにすることが大切であり、ケアラーの支援を広げていくことが、よいケアの実現につながるものと考えております。

本町のケアラーに対する支援につきましては、平成14年度に設立した「認知症老人と共に歩む会」の活動、平成20年度からは、認知症の方や介護者の支援についての知識を学ぶ「認知症サポーター養成講座」の開催、平成29年度からは、認知症の人の正しい知識を習得し支援方法を学んだサポーターが行う認知症カフェ「カフェまちなか」の開催、平成30年度からはボランティア組織を一元化した団体としてケアサポーターが発足し、介護予防・認知症サロン・生活支援サロン等を実施しております。これら住民主体の視

点に立った体制構築の取り組みが、道内他自治体などからも注目を集め、昨年2月には、これらの活動が高く評価され認知症患者を支援するNPO法人全国キャラバン・メイト連絡協議会から認知症サポーター優良活動事例として全国表彰を受けました。

サポーターの高齢化から、体制維持に多くの課題を抱えていることも確かです。今後は、行政と社会福祉協議会との連携に留まらず、商工会議所や民間事業者、ボランティア団体、さらには地域おこし協力隊が一体となり、全ての世代、職種による体制構築を進めることが必要と考えております。

条例の制定については、認知症サロン・生活支援事業など、各種ケアラーの支援の取り組みの中で抱える様々な課題を共有し、町民の理解を広げ、十分協議・議論の中で検討していきます。



質問要旨

新型コロナウイルスに対応するワクチンの確保及び助成について

昨今、新型コロナウイルスが世界中で流行している現状において、一日も早い予防ワクチン・治療薬の開発が待たれる所であり、いずれ開発されるであろう予防ワクチンの確保に向け、日本政府において努力している所であります。

報道されている内容を見たところ、現状においてはまず2万人分の予防ワクチンを確保し、医療・介護従事者、症状が悪化しやすい高齢者や持病を患っておられる方に優先して提供される事が見込まれており、また



議席番号5番
伊藤 充章 議員

先日の首相会見においては2021年
前半までには全国民分の予防ワクチ
ンを確保して無料で提供する方針で
あるとの事でした。

さて、その予防ワクチンが開発さ
れ実際に出来る事を想定した時、恐
らく供給当初においてはその数量は
大きく不足する事が予想されます。
政府がどの様に供給するのか、その
方法も具体的ではないなかで難しい
所で御座いますが、町としては町立
診療所を通じて一人でも多くの人が
摂取出来るよう数量確保に向けて取
り組むべきだと思います。また無料で
提供する方針との事についても、それ
が恒久的に無料なのか最初だけなの
か、この事についても具体的ではあり
ませんが、今後予防ワクチン接種が
有料化された場合、現在行われている
各種ワクチン接種の助成事業と同
様に、この新型コロナウイルス予防
ワクチンについても助成されるのが適当
と考えます。

現状においていささか時期尚早か
とも思いますが、これらの事につきま
して町のお考えをお伺い致します。

答弁要旨

新型コロナウイルスワクチンは、
WHOによると9月3日現在臨床
試験に入っているワクチン候補は

34種類あり、このほかに142種
類が前臨床の段階にあります。

日本政府においても9月4日厚
生労働大臣の会見で、ワクチン確保
のために、予備費6,714億円の
使用を閣議決定し、供給に向けて製
薬会社と交渉を進めており、令和3
年前半までに全国民分のワクチン
を確保すべく取り組んでいるとの
ことであります。

しかしながら、接種方法、回数な
どワクチン接種の詳細が現段階で
は決まっていないため、具体的な答
弁は控えさせていただきますが、ワ
クチンが有料化された時は、感染症
対策として、現在も実施しておりま
す全町民を対象にしたインフルエ
ンザワクチン助成に準じた対応を
進めたいと考えており、今後、新型
コロナウイルスワクチン接種につ
いて、国から具体的な方針が示され
た段階で、改めて町の対応について
検討してまいります。

議会広報誌の編集委員



・高橋 成和
・数馬 尚
・吉川 洋
・伊藤 充章
・越前 一等
・小澤 一文

議員定数について

令和元年第4回定例会において
「上砂川町議会議員定数等審査特
別委員会」を設置し、現在の議員定
数9名が適切かどうかを検討しま
した。

合計4回にわたって特別委員会
を開催し、人口の動向及び今後の予
測、過去の町議会議員選挙の状況、
議会の役割の重要性など慎重に審
議を行い、次回選挙から議員定数を
1減らし、8名とすることで全委員
意見一致となりました。

これを受け、令和2年第3回定例
会にて次の通り定数条例の改正を
行いました。

発議第1号
上砂川町議会議員の定数を定める
条例の一部を改正する条例制定に
ついて

提出議員 吉川 洋
賛成議員 数馬 尚
伊藤 充章

【該当箇所抜粋】

上砂川町議会議員の定数は、
9人とする。

上砂川町議会議員の定数は、
8人とする。

提案された意見書

意見書の議員提案が第3回定例
会で3件あり原案のとおり可決さ
れ、関係機関に提出されました。

意見書案第2号

社会資本の整備・維持、総力戦で挑
む防災・減災プロジェクト、国土強
靱化を求める意見書

提出議員 吉川 洋
賛成議員 伊藤 充章
水谷 壽子

意見書案第3号

新型コロナウイルス感染症の影響
に伴う地方財政の急激な悪化に対
し地方税財源の確保を求める意見
書

提出議員 伊藤 充章
賛成議員 小澤 一文
笹木 笑子

意見書案第4号

地方自治体のデジタル化の着実な
推進を求める意見書

提出議員 小澤 一文
賛成議員 数馬 尚
吉川 洋

所管事務調査報告

調査期間

令和2年7月1日(水) 1日間

調査項目

株式会社ロボットシステムの稼働状況について

調査委員

行政常任委員会

委員長 伊藤 充章

副委員長 小澤 一文

委員 数馬 尚・吉川 洋・

越前 等・水谷 壽子・

笹木 笑子

高橋 成和議長

株式会社ロボットシステムズ社

は、上砂川町コンベンションホール

を利用した新規事業社であります。

同社は産業用ロボットシステム

の導入を促進し、北海道だけではなく

全国の企業へ少子高齢化に伴い、

これから訪れるであろう人手不足

対策の手助けが出来る企業である

ことを目的として本年5月に設立

されております。

調査時に様々な分野で使用され

ている工業用ロボットを拝見させて頂きましたが、これからの産業用ロボットは工業だけではなく、農業や医療分野、その他アイデア次第で様々な分野に活用出来る可能性を秘めており、今後必要不可欠なものになっていくであろう事を伺う事が出来ました。

今後の課題としては、ロボット導入を加速していく上で現在不足している人材の養成が急務との事でありますが、コンベンションホールの各スペースを有効に活用してこれからの社会を担う学生に産業用ロボットに触れる場を提供し、大学との共同研究や同業企業とのネットワークを構築する事でこの分野の裾野を広げ、人材を確保する事に取り組んでいくとの事でありました。

この事について、やはり専門的な知識が必要だったり、その様な分野を専攻していないといけないのか質問した所、「難しそうに思うでしょうが、その様な知識は全く無くても大丈夫であり、必要な知識は後からついて来るので、まずは触れてみる事・やってみる事、何よりも大事な事は『諦めない』という強い意志です」との事でありました。

現在の実績としては、道内各所から問い合わせや相談が相次いでおり、契約に向けた具体的な提案中の案件、契約に結びつき納品した事例もあり、またロボット産業の将来市場予測では、本年2020年の市場予測は2.9兆円、5年後の2025年予測では5.3兆円、15年後の2035年予測では9.7兆円と、大きく市場が拡大する事が見込まれ、今後の事業展開が期待される所であります。

(記 伊藤 充章)



町内団体代表者と上砂川町議会との意見交換会

この度、町議会として初めて町内各団体(各町自治会・町内会、商工会議所、消費者協会、社会福祉協議会、文化協会、体育協会、町PTA連絡協議会、こども園親の会、手をつなぐ育成会)の代表者の方々に対し、議会に関するアンケートを実施いたしました。結果、全団体、全依頼者より回答を頂き、心より感謝を申し上げます。

アンケートの結果をもとに町内団体代表者と上砂川町議会との意見交換会を9月9日に活性化センターにて開催いたしました。

初めに高橋議長より挨拶を申し上げ、その後、アンケート結果報告並びに意見交換会に入りました。

参加者の皆様からは、アンケートの一部にわかりにくい所があったようです。今後実施の際は精査していききたいと思います。

内容といたしましては、「町内の行事等にもっと、議員・町職員の参加を希望する」「今回のような機会を今後も希望する」等の意見が出されたほか、「中央バスが減便され不

便になり困っている人がいる」「福祉バスの利用可能時間の改善(延長等)の希望」等の要望が出されました。

皆様から頂いた意見等につきましては、議会としてもしっかりと受け止め、協議をさせていただき、これからの町づくりに反映させていくよう努力をしていく所存です。

今後もこのような活動を含め、より開かれた議会活動を議員一同努力させていただきます事を申し上げます。意見交換会の結果報告といたします。

(記 吉川 洋)

出席者(議会運営委員会)

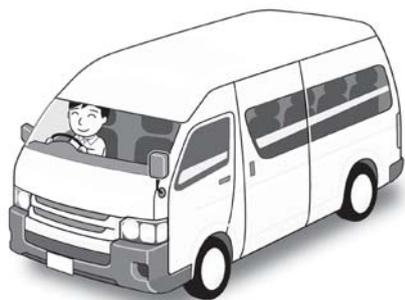
委員長 吉川 洋

副委員長 伊藤 充章

委員 数馬 尚・小澤 一文

高橋 成和 議長

笹木 笑子 議員



町内事業への参加報告

上砂川町表彰式

11月4日、水曜日、午前11時30分より上砂川町表彰式が開催されました。中央表彰顕彰、功労表彰、善行表彰の三部門の表彰があり、当日は5名の方が表彰式に参加されました。今回受賞されました10名の方々につきましては、町発展のために多大な貢献をいただきありがとうございます。

(記 高橋 成和)

出席者

高橋 成和・数馬 尚



地域おこし協力隊退任報告会・活動目標発表会

9月28日に町の駅ふらつとで行われました、地域おこし協力隊活動報告会に出席させて頂きました。

任期を終える隊員のこれまでの活動の記録や、新たに加わった隊員のこれまでのご経験やこれからの活動計画がそれぞれ報告され、町の駅ふらつとで提供予定の新作メニューの試食が行われました。

この町に住んでいてはなかなか気付く事が出来ないこの町の価値を、町の外からの視点で見出して活動される隊員の皆様には改めて気付かされる事が多い発表会でありました。

任期を終えられる隊員のお二人には、これまでの活動に深く感謝し、また別の形で上砂川町にお力添えを頂けます事をお願いし、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。御座います。

(記 伊藤 充章)

出席者

高橋 成和・吉川 洋・

伊藤 充章

編集後記

毎年感じるのですが、1年はあっという間に終わるものです。今年も12月の議会だよりを発行する時期となりました。

今年1年を振り返るとコロナウイルスで始まり、コロナウイルスで終わると言う感じですが、中々終わらない、先が見えない状態で本当に不安な日々を過ごしている事とあります。

世界的にみると、日本の感染者の少なさを不思議にみる事が取りざたされていますが、亡くなった方の人数を見ても世界的には少ないのは事実とします。何が原因かと色々とは話はあるようですが、只、間違いないのは日本人の日々の衛生環境に対する取り組みもその要因の一つと考えられます。

日本人は本来清潔的で、広い意味で日本文化の程度の高さを示されたと思います。これからも、日本の本来ある良さをなくさず、周りに気配りのできる日本社会であってほしいと、今回のコロナウイルスの感染状況の中で改めて感じた次第です。

(記 吉川 洋)